



「宮領ワークセンター」(工事中) 十二月開設

働くことへの意欲を高める

あおぞら工房の利用者の皆さんは、あおぞら工房の作業しか触れる機会がありません。でも実際には沢山の仕事があります。利用者の皆さんにもその事を知ってもらいたいと思い、先日、他法人の就労継続支援B型事業所を見学をさせていただきました。

訪問させて頂いた事業所には、印刷業やミサンの制作などあおぞら工房にはない作業が沢山ありました。日頃目にしない作業の数々に利用者の皆さんは興味を持たれたようで、「これはなんの部品?」「このミサング、どうやって作るんですか?」「お給料はいくらですか?」と質問をされていました。中には「あおぞら工房にもこの作業があればいいなあ」と言った声もありました。今後は一般企業の見学も考えています。

このような活動を通して利用者の皆さんが働くことへの視野を広げると同時に、一人ひとりが一般就労に向けてのイメージをもってもらいたいと思っています。

一方、私たち職員は、利用者の皆さんの作業への興味や適性に応じた作業の提供、支援の組み立てをすることで、作業意欲が高められるよう、努力していきたいと考えています。

あおぞら工房 主任支援員
内田 孝洋

あおぞらぱん屋さん

A O Z O R A B A K E R Y



あおぞらぱん屋さん
店長 塔迫 里美

あおぞらぱん屋さん本店
目玉商品 パケット



宮領本店オープンに向けて!!

12月7日、あおぞらぱん屋さんは、宮領ワークセンターに本店を移してオープンします。(現在の本店は小谷店として引き続きパン販売を行います)

そこで今、宮領本店の目玉商品にしたいと考え、パケットづくりの力を入れていきます。

パケットは、小麦と塩だけで作るシンプルなお菓子だけに技術が必要であり、パン屋の個性が出ます。

このパケットが、人気をいただいている食パンと共に、「おいしい、小麦の旨みが味わえる」と言ってもらえる一押し商品になりますように、更に完成度を高めてオープンを迎えたいと意気込んでいます。

皆様、あおぞらぱん屋さん宮領本店オープンをどうぞお楽しみに。

宮領デイセンターの役割

障害のある人たちが自分の住む地域で生活を営むために、通所施設の果たす役割は大きく、その責任も求められます。宮領デイセンターの利用者にとって「生活介護」は日中活動のほとんどを占めており、私たちが職場へ働きに行くのと同様に、重要な社会参加の場となっています。

では、社会参加とはどのようなものなのでしょうか? ICF(国際生活機能分類)では、「参加とは社会的出来事に関与したり役割を果たすこと」と定義されていますが、コミュニケーションの苦手な障害のある人たちにとって「参加」することはたやすいことではありません。だからといって、「生活介護」の事業が、日中過ごす事のできる「ただの居場所」で終わってはいけないと思います。例えば、Aさんにとっては足浴用の湯桶に入浴剤を入れていくこと、本人としては湯の色が変わることを楽しんでいるのですが、実は皆とコミュニケーションのとれる機会であり役割となっています。Bさんは朝の会でみんなと同じフロアに立つこと、そして名前を呼ばれて手を挙げるのが、Bさんにとっての参加のひとつの形であると言えます。

一人ひとりが社会や地域とのつながりを感じ自信を持つことが、次への社会参加への一歩だと思います。できるだけたくさん、具体的に、その人らしい「参加」を創り出していくこと、それが宮領デイセンターの役割りであると思っています。

宮領デイセンター
管理者 堀川勝彦

小谷秋の大収穫祭

日時：10月26日(土) 10:00~15:00

場所：総合活動センター(あおぞらぱん屋さん 駐車場)

主催：小谷小学校区市民協働まちづくり協議会

ゲスト：さいねい龍二さん

おいしい食べ物出店も多数あります。ぜひお越しください!